

令和3年度第2回地域学校協働活動推進委員会 協議テーマ

【所管課：生涯学習課】

協議タイトル

自律へ向かう児童・生徒の育成のための方策 ～地域学校協働活動の取組を通して～

背景・趣旨等

第1回高知県地域学校協働活動推進委員会で以下の課題が指摘された。

○放課後児童クラブ・子ども教室や地域子育て支援センターなど、地域の教育・福祉機関と学校とが、子どもの特性や家庭背景など、子どもたちの指導・支援に必要な情報との共有を十分にすることができていない。

○「自律へ向かう児童・生徒」など、各地域で目指す子ども像について、学校と地域で共有されていない、また熟議するための組織づくりがなされていない。

各地域で「自律へ向かう児童・生徒」を育成するためには、子どもの特性や家庭の背景など、指導や支援に必要な情報共有をより一層充実させる必要がある。

そのためには、学校と地域が組織として機能的・効果的に子どもたちの教育に当たる必要があることを再確認した。

組織の強化として「学校運営協議会の設置と促進」や、機能の強化として「地域学校協働活動推進員（コーディネーター）の活用」、また効果的な方法の一例として「コミュニティカレンダーの活用」などいくつかのヒントをいただいた。

学校と地域の連携を持続可能なものとするためには、地域と学校のパイプ役である地域学校協働活動推進員（コーディネーター）が鍵になると考える。そこで、今回の協議テーマである「自律へ向かう児童・生徒の育成のための方策」として、次の点からご意見・ご助言をいただきたい。

●地域と学校をつなぐ地域学校協働活動推進員（コーディネーター）のコーディネーター機能の強化を図るためのアイデア

●地域学校協働活動推進員（コーディネーター）を支え、共に育ち合うために必要な周囲の役割とは
県教委においても地域学校協働活動推進員（コーディネーター）が学校と地域をつなぐキーパーソンであることから平成30年から年に3回、コーディネーター研修会を実施している。一方で、地域での実際の活動から経験値を積み上げることが最も重要であるとも認識している。

また、うえの2つ以外の役割で、学校と地域の仕組みをバージョンアップしていくために必要なことがあれば、その点についても挙げていただきたい。

本日いただいた意見については、整理したものを県生涯学習課 HP に掲載するとともに、各市町村（学校組合）所管課へ送付し、今後の地域学校協働活動に生かしていただきたいと考えている。

関連する本県の施策や基本情報等

■学校との連携（高知市含む） 【R3 取組状況調査より抜粋】

①定期的な連絡

子ども教室：81% 児童クラブ：85%

②必要に応じて学校関係者が足を運ぶ

子ども教室：87% 児童クラブ：98%

③教職員等が学習指導を行っている

子ども教室：8% 児童クラブ：1%

④必要に応じて連絡

子ども教室：90% 児童クラブ：97%

⑤特に連携していない

子ども教室：3% 児童クラブ：1%

⑥その他

子ども教室：15% 児童クラブ：79%